

稲荷山公園の平面イメージ図を 踏まえた公園利活用（案）について

1 専門家委員会における検討の進め方について（第3回資料より）

稲荷山公園基本計画（整備イメージ）の考え方

- 「武蔵野の面影」の再生
- 多様な動植物の生育・生息空間となる樹林地の拡大 など

視点1:計画地周辺の現状

- 周辺区市との関係性 ●都市の将来像
- みどりのネットワーク（周辺の公園・緑地との連携）など

視点2:計画地の現状

- 河川・地形 ●既存建物 ●既存道路
- 湧水 ●みどり（計画地の植生） など

視点3:計画地の課題

- 防災対策（土砂災害(特別)警戒区域、浸水区域）
- 社会変化（人口動態・都市構造の変化）
- 未接道宅地 ●都市基盤（下水道・雨水排水）など

視点4:整備のアイデア

- 「武蔵野の面影」の再現
- 周辺地域の種子・土壌の活用
- 維持管理計画の明確化
（樹木管理方針の作成、区民協働による維持管理や環境調査）
- 小規模な遊水環境の整備
- 多面的な機能を生かした河川整備
- 土砂災害（特別）警戒区域の解消
- 災害時を想定した整備
- リスク検知を考慮した調整池の整備
- 「武蔵野の面影」を景観資源とした活用
- 右岸の崖線を含む高低差を生かした景観を楽しむ場の提供
- 樹林地の管理や環境調査による区民参加
- センター機能の整備 など

・・・公園利活用に関する事項

具体的な検討項目

【森の景観を楽しむゾーン(左岸)】

- 災害時の利活用
- 災害時を想定した一時避難場所としての整備
- リスク検知を考慮した雨水調整池や河川の調節池の整備
- 水災害に対応した公園としての整備
- センター機能の整備（便益施設、会議室、環境教育や生物多様性を学べる場）
- 区民、子どもたちが遊べる広場や遊具、広がりのある景観を楽しむ場の整備など

【計画地全体】

- 森や川辺を身近に感じる散策路や親水空間を東京都と調整しながら検討・整備
- 樹林地だけでなく草原などの半自然草地による「武蔵野の面影」を再現
- 周辺の生産緑地・公園との連携
- かつての水田、湿地を想像できる小規模な遊水環境の整備
- 周辺地域の種子・土壌の活用
- 伝統野菜等が栽培できる田畑の再現
- グリーンベルトとしての役割
- 親水空間や浸水対策など多面的な機能を生かした河川の整備
- 崖線を含む高低差を生かした景観を楽しむ場の提供 など

【森を守り育てるゾーン（右岸）】

- 既存の自然環境の保全とみどりの計画的な拡充
- 生物の拠点としての緑地の位置づけ
- 湧水と絡め、雨水を集水する環境の整備
- 湧水のかん養域となるような集水環境の整備
- 急傾斜地を生かし、地形と水の流れや生態系が見える環境の整備
- 周辺の生産緑地と一体となる公園の整備
- 樹林地の維持管理のための計画的な萌芽更新
- 土砂災害(特別)警戒区域の解消
- 里山管理や環境教育も含めた樹林地の管理や環境調査など森を育てる
区民協働の仕組みづくり
- 地下施設の取扱い など

連携

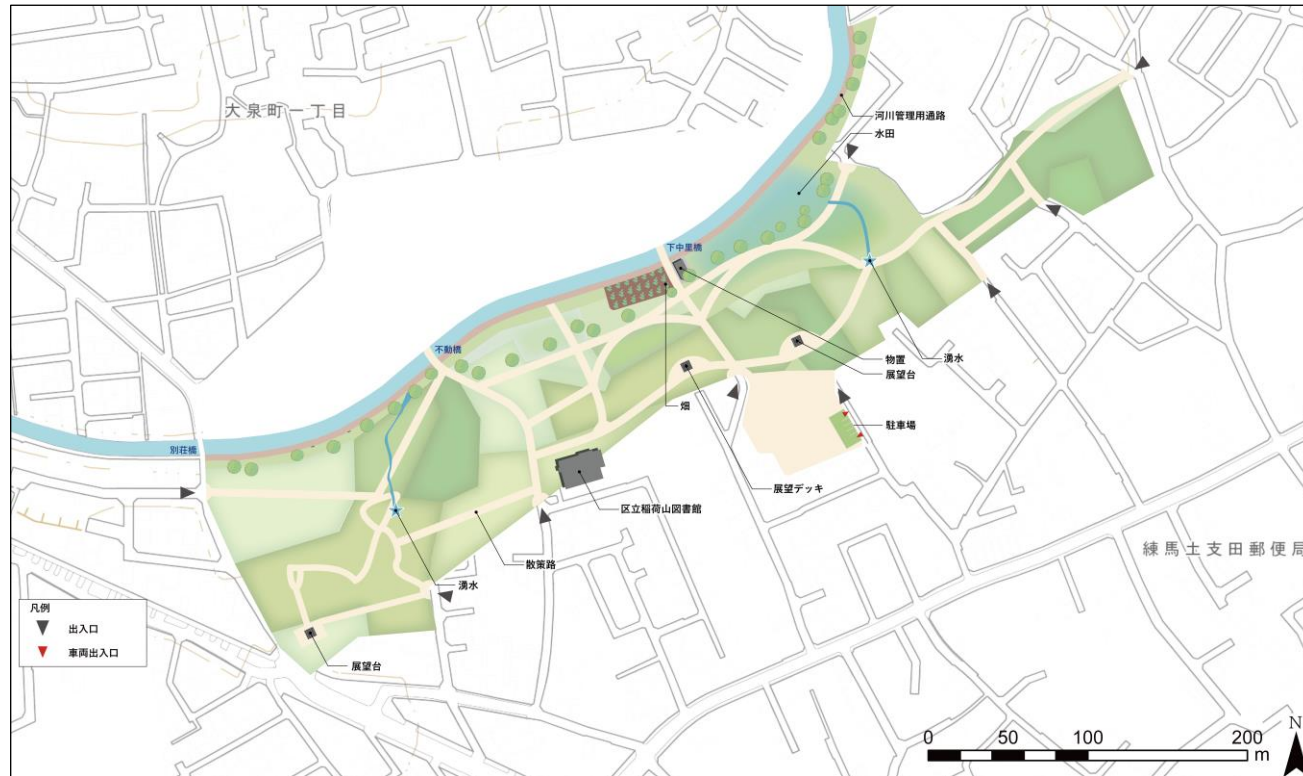
公園のゾーニング・将来像・ロードマップを検討する視点

公園全体の将来像（ゾーニング）・段階的な整備のロードマップ

2 「森を守り育てるゾーン」における利活用の将来像

樹林や湧水が残る右岸は、都心近くに位置しながら希少な動植物と出会うことができ、武蔵野の面影を感じられる景観を創出します。散策しながら四季が織りなす風景を楽しめるとともに、地域の方々の身近な憩いの場となります。

右岸では、植物や動物の関わりなど生物多様性のほか、樹林地管理や農業などを楽しく学ぶことで、自然環境への探求心を育み、世代を超えた交流が促進されます。



平面イメージ図（右岸）

①武蔵野の面影の再生

- ・四季の移り変わりをを感じられる武蔵野の森を再生します。
湧水を活用し多様な生物が生息できる湿地を形成するとともに、森、ススキ草原、カサスゲやガマ群落など武蔵野の面影を感じながら散策を楽しめます。
- ・大規模な崖線の森やそこから生じる湧水の仕組みなどから、地形等を体感できるとともに、そうした環境を保全する活動に取り組めます。

②区民との樹林地管理と希少な動植物の保全

- ・カタクリやキツネノカミソリなど希少な植物の保全を区と地域の方々などで協働して取り組みます。
- ・稲荷山図書館や生き物などに関する自然体験学習を行っている中里郷土の森緑地などと連携しながら、あらゆる世代が豊かな自然とふれあい学べます。
- ・樹林地を長期にわたって健全に生育させるため、森林浴を楽しみながら、萌芽更新の促進や苗木の育成体験に取り組みます。

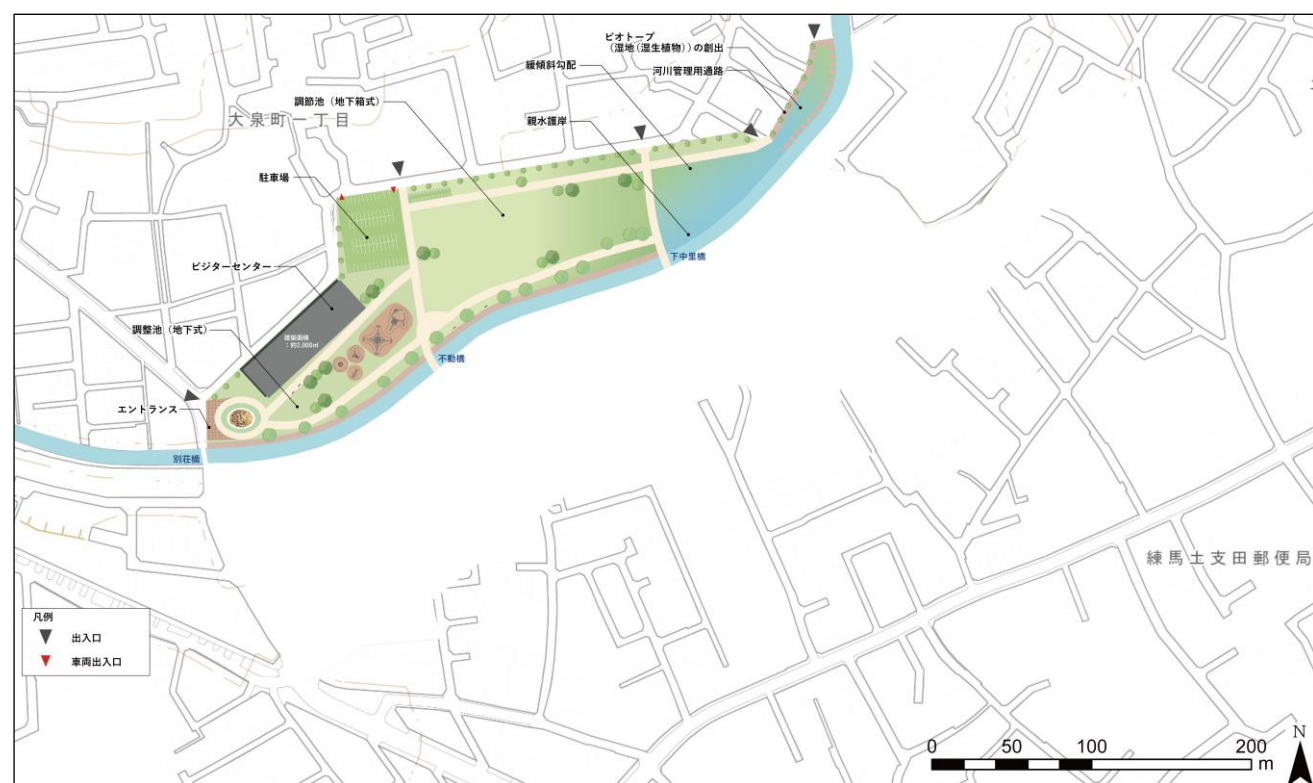
③農業体験

- ・幅広い世代のコミュニティ形成の一助として、農業体験を楽しめます。
- ・食育・環境教育の一環として、田植え・稲刈り体験学習を実施します。
- ・練馬区の伝統野菜や農法などを伝えるため、ボランティアによる農体験指導が行われます。

3 「森の景観を楽しむゾーン」における利活用の将来像

平坦な地形を有する左岸は、区内でも有数の大規模な樹林地を望めみどりあふれる開放的な広場とします。広場やカフェなどの休憩施設が日常的な憩いの場となるほか、多目的な活動や多様なイベントも行うことができ、交流を促進します。大規模な地震や火災発生時の避難場所ともなり、地下に設けた調節池・調整池により地域の防災力の向上にも寄与します。

また、白子川と一体的な親水空間を創出することで、水に親しみながら水辺の環境など環境教育が促進されます。



平面イメージ図（左岸）

①大規模な広場と遊戯広場

- ・対岸の崖線、樹林地、白子川の自然豊かな景観を楽しむとともに、大規模な広場で来園者がのんびり思い思いの過ごし方を楽しめます。
- ・大江戸線の延伸などにより地域が発展する中、広場を使い様々な賑わいを創出でき楽しめます。
- ・大規模な地震や火災の際には、防災活動を支える場としても利用できます。
- ・子どもが思う存分遊べる遊具や、高齢者の方も利用できる健康増進に寄与する複合的な器具などを配置し、様々な年代の方が楽しみ交流を深める場となります。

②ビジターセンター

- ・公園の利用者がレストランやカフェなどでひと休みしたり、自由に往来できる交流の中心となります。
- ・稲荷山公園周辺の動植物に関する情報が得られるとともに、自然環境を学習することができます。

③調節池・調整池など治水対策

- ・広場の地下を有効活用し、河川や内水の氾濫への備えを行うことで、地域全体の治水機能が向上するとともに、治水対策を学習することができます。

④間接的な調節機能を備えた親水空間と生物の住处となる水辺空間

- ・防災意識の醸成を図る場として、河川が見せる様々な「顔」を身近に感じられる空間となります。
- ・水生生物に優しい環境を創出し、地域の人々が親しみをもてるかつての白子川のような、川辺の景観を楽しめます。